

秋サケ資源調査

山中崇裕

はじめに

青森県太平洋沿岸に來遊する秋サケ資源の來遊経路及び漁場特性を把握し、今後の秋サケ資源の適正な管理及び漁業調整施策の資料とする。

材料と方法

東通村尻屋から階上町の太平洋沿岸漁協所属の漁船（10トン未満の漁船で委託期間は10月～12月、一部12年1月まで）に試験操業を委託し、はえなわ漁法（1操業当たり15鉢以内、1鉢：100m以内で約35本の針が装着されている）によって図1に示す調査海域内でサケ分布状況・移動回遊等（標識放流）について調査を実施した。調査海域は緯度経度概ね5分毎に区切り、主な調査海域については番号を付した。

調査結果

平成11年度のはえなわ調査委託船の調査概要を表1に示した。実際の操業隻数は委託隻数108隻に対し32隻であった。延べ出漁日数は128日、総使用鉢数1,719鉢、総漁獲尾数5,768尾、水揚げ金額は6,546,393円であった。

委託隻数は昨年より増加したが、操業隻数は昨年より減少した。また、漁獲尾数及び水揚げ金額は昨年の3分の1程度にとどまった。

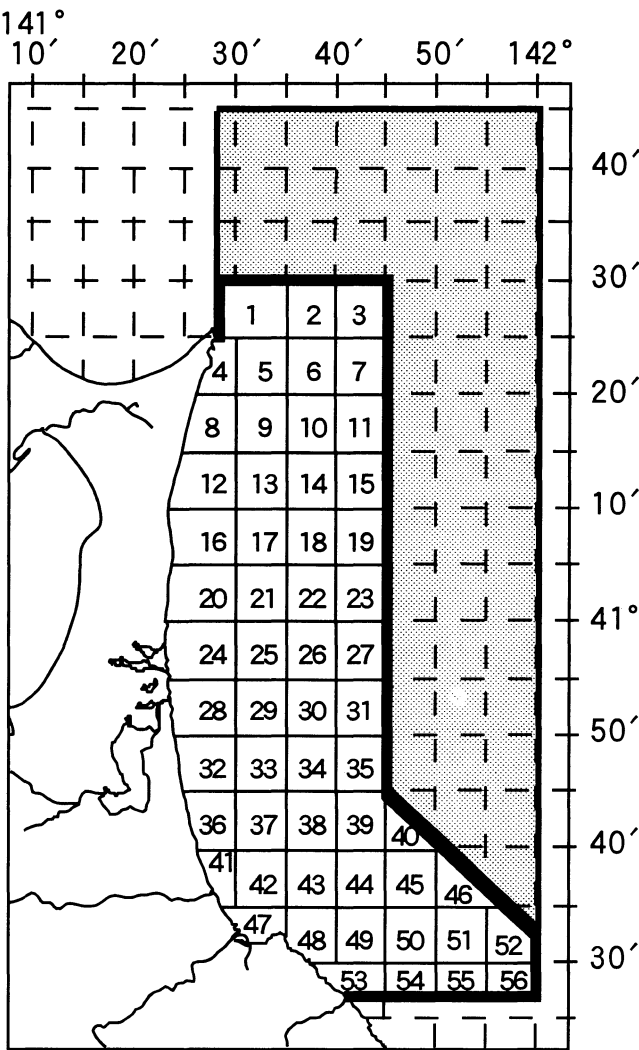


図1 試験操業海域図

表1 平成11年度試験操業概要

漁協名	委託隻数	再委託	出漁隻数	出漁期間	延出漁日数	使用鉢数	漁獲尾数	放流尾数	水揚げ金額
階上	24	0	2	11/20～11/27	3	43	80	1	80,620
八戸市南浜	22	20	17	11/11～12/10	72	1,061	2,955	57	3,424,012
八戸鮫浦	27	8	13	11/2～12/9	53	615	2,733	42	3,041,761
はちのへ	1	0	0	—	0	0	0	0	0
百石町	3	0	0	—	0	0	0	0	0
三沢市	5	0	0	—	0	0	0	0	0
六ヶ所村	1	0	0	—	0	0	0	0	0
六ヶ所村海水	1	0	0	—	0	0	0	0	0
泊	20	19	0	—	0	0	0	0	0
白糠	4	4	0	—	0	0	0	0	0
合計	108	51	32		128	1,719	5,768	100	6,546,393

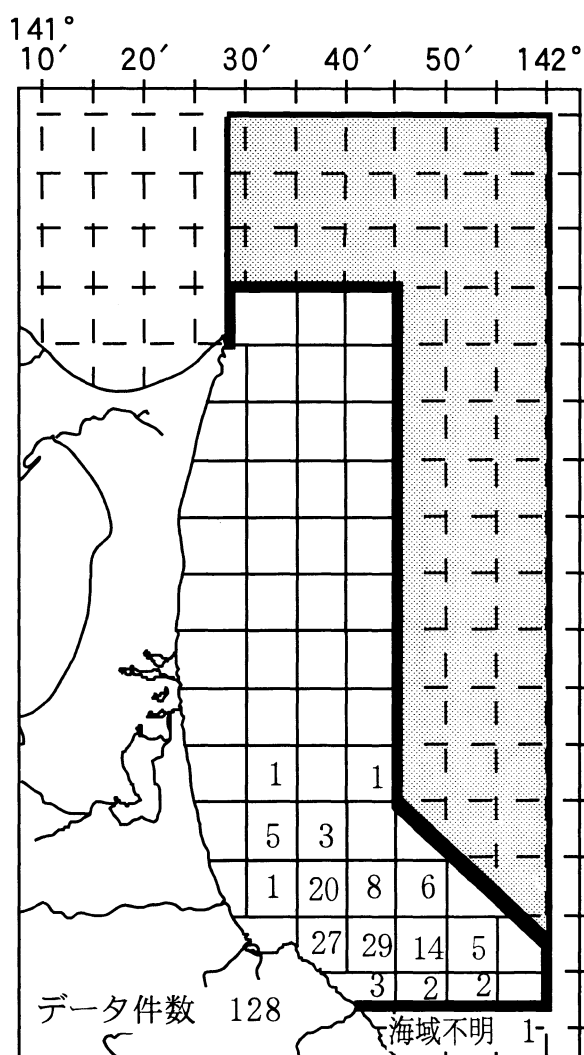


図2 海域別操業回数

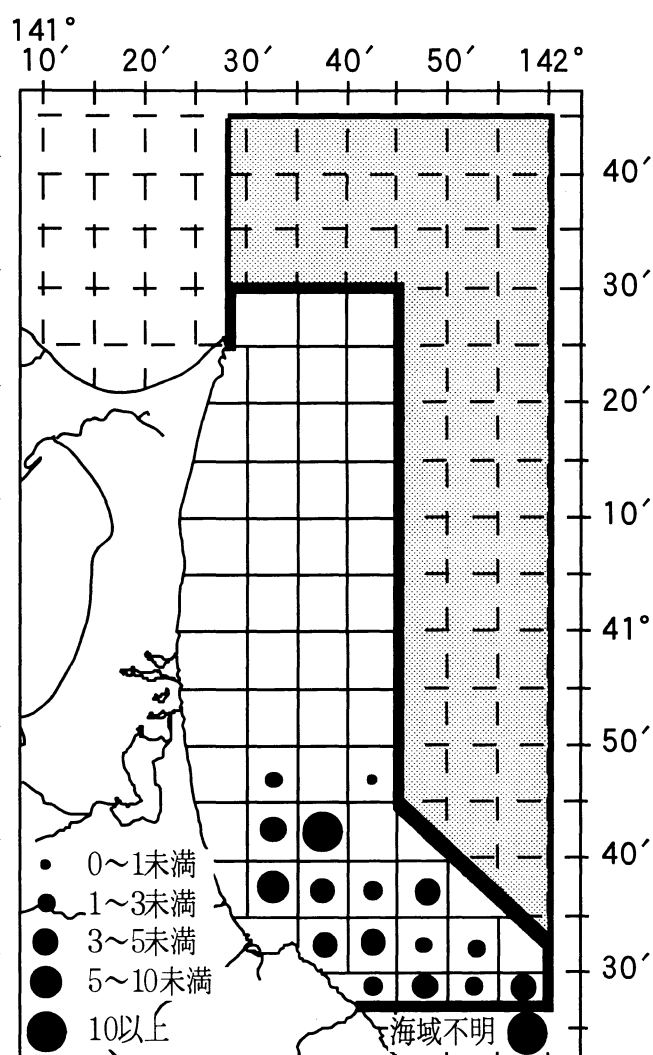


図3 海域別CPUE

(一鉢あたり漁獲尾数)

1) 海域別操業回数

調査海域毎の操業回数を図2に示した。試験操業の全てが南部海域で実施され、北部海域では皆無であった。中でも操業が盛んであった海域は、海区番号43、48、49の海域で、ここだけで全体の操業回数の6割を占めていた。

2) 分布密度

図-3に海域別CPUE（1鉢当たりの漁獲尾数）を示した。CPUEが10を越えたのは海域番号38のみであった。全体にCPUEが低く、秋サケ魚群のまとまった来遊は見られなかった。

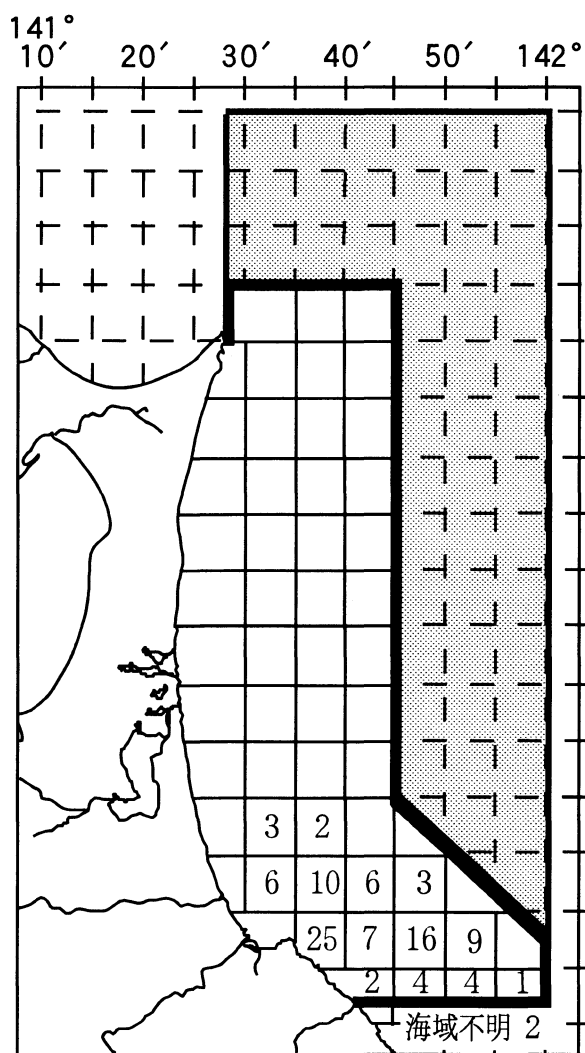


図4 海域別放流尾数

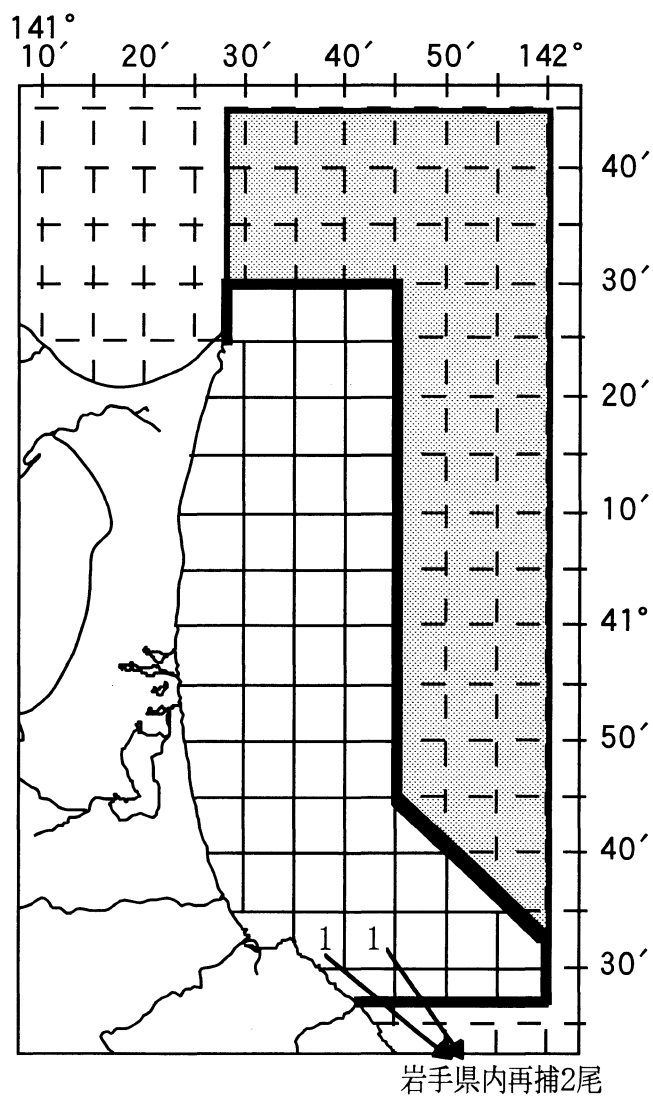


図5 海域別再捕状況

3)移動回遊

図-4に海域毎の標識放流尾数を、図-5と表-2に再捕状況を示した。

放流尾数は全期間を通じて100尾の放流があり、2尾の再捕報告があった。

再捕された2尾はいずれも岩手県からの報告であった。

表-2 標識放流結果

標識番号	放流内容		再捕内容	
	年月日	海区	再捕年月日	再捕の場所
548	H11.11.21	49	H11.12.2	大鮑定置網
584	H11.12.1	48	H11.12.4	磯建網（久慈市周辺）

考 察

表-3に昭和61年から太平洋において実施してきた秋さけはえなわ試験操業の実施状況一覧表を示した。

開始当初7隻で始まった試験操業は、平成11年には委託隻数108隻と過去最高の隻数となったが、実操業隻数は32隻と前年より減少している。これはCPUEでも示されるとおり秋サケのまとまった

表3 秋サケ延縄試験操業実施状況

年次	昭和61	昭和62	昭和63	平成元	平成2	平成3	平成4
委託隻数	7	18	38	56	64	64	101
出漁隻数	7	13	30	37	40	26	39
延べ出漁日数	81	99	411	420	172	129	477
漁獲尾数	4,301	1,729	26,565	26,154	4,015	6,225	14,843
平均漁獲尾数	53.1	17.5	64.6	62.3	23.3	48.3	31.1
放流尾数	52	15	255	343	138	169	235
再捕尾数	2	5	5	6	6	12	1
再捕率	3.8	33.3	2.0	1.7	4.3	7.1	0.4
県内再捕尾数	1	1	1	5	1	6	1
(内河川再捕)	0	0	1	3	0	2	0
県外再捕尾数	1	4	4	1	5	6	0
(内河川再捕)	0	0	0	0	0	1	0

年次	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	計
委託隻数	86	94	95	86	77	81	108	348
出漁隻数	41	46	28	28	38	37	32	192
延べ出漁日数	336	252	78	174	263	233	128	1,789
漁獲尾数	16,252	17,051	1,085	15,260	19,247	18,289	5,768	83,832
平均漁獲尾数	48.4	67.7	13.9	87.7	73.2	78.5	45.1	300
放流尾数	190	225	44	211	268	274	100	1,207
再捕尾数	2	6	1	22	12	4	2	37
再捕率	1.1	2.7	2.3	10.4	4.5	1.5	2.0	53
県内再捕尾数	0	4	1	4	5	2	0	16
(内河川再捕)	0	0	0	2	5	0	0	6
県外再捕尾数	2	2	0	18	7	2	2	21
(内河川再捕)	0	0	0	4	1	1	0	1

※ 平均漁獲尾数＝漁獲尾数／延べ出漁日数

魚群が来遊しなかったため、多くの委託船が出漁を見送ったためと思われる。

なお、秋サケ試験操業は従来12月31日までの委託期間であったが、本年度は水温の下降が遅く、秋サケの来遊が時期的に遅いことも考えられたので、希望者については1月31日まで再委託契約を締結した。しかし、1月に入ってからサケのまとまった来遊が観察されなかったため、実際の操業は行われなかった。

近年の秋サケは供給過剰による市況の低迷により、本漁業の経済性は低下してきているが、比較的経済性の高いギン毛のサケが漁獲の主体であることや、秋サケはえなわ漁はスルメイカの漁閑期に沿岸小型船によって操業されている実態を考慮すると、今後も本漁業の操業への潜在的な希望が強く、継続的に調査を行っていく必要があると考えられる。